

## ＪＲ東労組「第35回臨時大会」終了にあたっての盛岡地本見解

私たちが求めてきたＪＲ東労組「第35回臨時大会」が4月12日に東京都「ホテルイースト21」にて開催されました。臨時大会の開催を望みに共に歩を進めていただけてきた全組合員のみなさんに感謝申し上げます。

第35回臨時大会は、これまで組織の混乱を収束させるどころか拡大させてきた吉川中央執行委員長及び宮澤中央執行副委員長（東京地本執行委員長）と「臨時大会は規約違反だから参加しない」という12名の中央執行委員に対して、それぞれ制裁審査委員会設置の申請要求の提出が決まっている異常事態の中での開催となりました。

第35回臨時大会は、18春闘の総括とＪＲ東労組の今後の方針が注目された大会でした。村田中央執行委員長代理の挨拶や山口書記長の提起の中で、戦術行使を背景に18春闘をたたかった過程で、多くの脱退者を生み出したことへの中央本部としての謝罪と、新たなＪＲ東労組を創り上げる決意が述べられました。一部代議員からは臨時大会の開催を認めないとの発言もありましたが「職場現実合ったたたかいを打ち出すべき」「準備不足」などの主体的反省のほか、組合員と共に歩む体制の再確立を図る決意が各代議員から発言されました。

盛岡地本指導部もこの事態を招いた当事者です。したがって、上部機関に対して職場現実を伝えきれなかったことを深く反省しなければなりません。この反省の上に立ち「間違っていることは間違っている」との態度を明確にし、東京地本、水戸地本、八王子地本が団体交渉を行っていないにも関わらず、各労働委員会に不当労働行為救済申し立てを勝手に提出した件について、ルールに沿った対応に戻すために盛岡地本の代議員で「一旦取り下げを求める修正動議」を提出し、可決成立を得てきました。

山口書記長は総括答弁で「組合員の期待を裏切ることなく、組合員に正直に新しいＪＲ東労組を創り上げよう！」と力強く述べ、全体で確認し、新たなスローガン、運動方針を確立してきました。しかし、新たなスローガンや、運動方針に対して反対の意思を表明した代議員がいたことも事実です。私たち盛岡地本は、組合員の雇用と利益を守るためにＪＲ東労組の再確立に向けて尽力し、一方でそれを妨害するものとは断固たたかっていく決意です。

組合員のみなさんは、今後の労使関係がどうなるのかを心配されていると思います。健全な労使関係の再構築は一朝一夕でできるものではありませんが、私たち盛岡地本は各種施策や日々発生する諸問題に対して、組合員の「安全・健康・ゆとり・働きがい」を基軸として信義誠実の原則でしっかり会社と向き合っていきます。

全組合員のみなさん！脱退を余儀なくされたみなさん！組合員のためのＪＲ東労組を再確立するために再結集を訴えます。盛岡地本は臨時大会をＪＲ東労組の再スタートと位置づけ、失った信頼、信用を取り戻し、真のＪＲ東労組運動を創り出すために奮闘することを明らかにし、盛岡地本の見解とします。

2018年4月18日  
東日本旅客鉄道労働組合  
盛岡地方本部執行委員会